

# 土木工事標準積算基準書

## (Ⅱ)

第Ⅲ編 河 川

第Ⅳ編 道 路

第Ⅴ編 公 園

平成 26 年度

広島市

# 土木工事標準積算基準書

## (I) 目次

第I編	総則	別冊
第II編	共通工	別冊
第VI編	市場単価	別冊

---

## (II) 目次

第III編	河川	1
第IV編	道路	294
第V編	公園	1079

---

## (III) 目次

### (電気通信編)

第VII編	積算	別冊
第VIII編	歩掛	別冊

### (機械設備編)

第IX編	機械設備	別冊
------	------	----

第 1 章 河川海岸 ----- 2

1) 消波根固めブロック工	3
1)-1 消波根固めブロック工	3
1)-2 消波根固めブロック工（ブロック撤去工）（0.25t 以上 35.5t 以下）	14
1)-3 消波根固めブロック給熱養生工	18
2) 捨石工	20
3) 消波工	23
4) 浚渫工	39
4)-1 浚渫工（ポンプ式浚渫船）	39
4)-2 浚渫工（バックホウ浚渫船）	57
5) 軟弱地盤上における柔構造樋門・樋管工	63

第 2 章 河川維持工 ----- 67

1) 堤防除草工	68
2) 堤防天端補修工	77
3) 堤防芝養生工	79
4) 伐木除根工	81
5) 塵芥処理工	91
6) ボーリンググラウト工	99
7) 沈床工	106
7)-1 粗朶沈床工	106
7)-2 木工沈床工	111
7)-3 改良沈床工（鉄筋コンクリート製）	113
8) 機械土工（河床等掘削）	116
9) 多自然護岸工	119
9)-1 巨石積（張）工	119
9)-2 木杭打工	126
9)-3 柳枝工，玉石階段工	128
9)-4 巨石据付工	131
10) 護岸基礎ブロック工	132
11) かごマット工	136
12) 野芝種子吹付工	138
13) 袋詰玉石工	141
14) 笠コンクリートブロック据付工	143
15) グラウトホール工	146
16) 連節ブロックの水中吊落し工	147
17) 光ケーブル配管工	150

第 3 章 砂防工 ----- 159

1) 土工	160
1)-1 土工	160
1)-2 土工（バックホウ床掘山積 0.45m <sup>3</sup> （平積 0.35m <sup>3</sup> ））	170
2) コンクリート工	174
2)-1 コンクリート工	174
2)-2 コンクリート工（ケーブルクレーンで施工する場合）	179
2)-3 コンクリート工（横取りを行う場合）	185

2)-4	砂防コンクリート生産（ミキサによる混合）工	188
2)-5	砂防コンクリート生産、運搬（投入）工	191
2)-6	残存型枠工	195
3)	仮設備工	197
3)-1	仮設備工	197
3)-2	仮設備工（砂防コンクリート生産設備）	201
3)-3	仮設備工（軌条及び機械設備）	208
3)-4	仮設備工（ケーブルクレーン付属設備）	209
4)	養生工（練炭）	212
5)	石材等採取工（割石、雑割石、野面採取）	213
6)	ケーブルクレーンによる資材等の運搬・据付・撤去工	215
6)-1	ケーブルクレーンによる資材等の運搬	215
6)-2	ケーブルクレーンの資材等の据付け・撤去	217
7)	水替とい工	219
8)	銘板工	221
9)	山腹工	222
10)	堤冠部保護工（隅石張）	239
11)	仮締切工	240
11)-1	砂防土砂仮締切・砂防土砂土のう仮締切	240
11)-2	砂防コンクリート締切	245
12)	鋼製砂防工	247
13)	砂防ソイルセメント工	251

#### 第 4 章 地すべり防止工 256

1)	地すべり防止工	257
1)-1	集水井工（ライナープレート土留工法）	257
1)-2	集水井工（プレキャスト土留工法）	264
1)-3	地すべり防止工（集排水ポーリング工）	269
1)-4	地すべり防止工（山腹水路工）	276
1)-5	地すべり防止工（かご工）	288
1)-6	集排水ポーリング孔洗浄工	291

### 第 IV 編 道路

#### 第 1 章 舗装工 295

1)	路盤工	296
2)	アスファルト舗装工	303
2)-1	アスファルト舗装工	303
2)-2	半たわみ性（コンポジット）舗装工	312
3)	排水性舗装工	315
3)-1	排水性アスファルト舗装工	315
3)-2	透水性樹脂コンクリート工	317
3)-3	透水性アスファルト舗装工	320
4)	グースアスファルト舗装工	324
5)	コンクリート舗装工	329
5)-1	コンクリート舗装工	329
5)-2	RCCP 工	333
6)	踏掛版（施工パッケージ）	336

#### 第 2 章 付属施設 339

1) 防護柵設置工	340
1)-1 ガードケーブル設置工	340
1)-2 落石防止網（繊維網）設置工	343
1)-3 立入り防止柵工	344
1)-4 車止めポスト設置工	347
1)-5 防雪柵設置及び撤去工	348
1)-6 防雪柵現地張出し・収納工	351
1)-7 雪崩発生予防柵設置工	353
1)-8 雪崩発生予防柵設置工（円形空洞型枠工，立入り防止柵工，柵板設置工）	357
1)-9 ボックスビーム設置工	360
1)-10 遮光フェンス設置工	361
1)-11 雪崩発生予防柵（PC製）設置工	364
1)-12 落下物等防止柵設置工	366
2) シャ音壁設置工	367
2)-1 シャ音壁設置工	367
2)-2 基礎杭打工（シャ音壁）	376
3) 路側工	379
3)-1 路側工（据付け）	379
3)-2 路側工（取外し）	386
4) 特殊ブロック設置工	388
5) 組立歩道工	390
6) 橋梁付属施設設置工	394
7) トンネル内装板設置工	398
8) 道路付属物設置工	400
9) スノーポール設置・撤去工	402
10) 道路植栽工（客土工）（上層 30cm）	403

### 第 3 章 道路維持修繕工 404

1) 路面切削工	406
1)-1 路面切削工	406
1)-2 切削オーバーレイ工	410
2) 舗装版破碎工	415
3) 舗装版切断工	418
4) 道路打換え工	420
5) 路上路盤再生工	427
6) アスファルト注入工	430
7) 舗装版目地補修工	434
8) 道路付属構造物塗替工	436
9) 張紙防止工	440
9)-1 張紙防止塗装工	440
9)-2 貼紙防止シート工	441
10) 床版補強工	443
11) 橋梁補強工	450
11)-1 橋梁補強工（鋼板巻立て）（1）	450
11)-2 橋梁補強工（鋼板巻立て）（2）	457
11)-3 橋梁補強工（コンクリート巻立て）	459
12) 橋梁補修工	469
12)-1 橋梁地覆補修工	469
12)-2 橋梁補修工（支承取替工）	474

12)-3	橋梁補修工（現場溶接鋼桁補強工）	478
12)-4	橋梁補修工（ひび割れ補修工（充てん工法））	479
12)-5	橋梁補修工（ひび割れ補修工（低圧注入工法））	481
12)-6	橋梁補修工（断面修復工（左官工法））	483
12)-7	橋梁補修工（表面被覆工（塗装工法））	485
13)	落橋防止装置工	488
14)	道路除草工	493
15)	道路清掃工	499
15)-1	路面清掃工（機械清掃）	499
15)-2	路面清掃工（都市型ブラシ式）	504
15)-3	路面清掃工（人力清掃工）	508
15)-4	ガードレール清掃工	511
15)-5	ガードレール清掃工（自動追従形）	514
15)-6	デリニエータ清掃工	517
15)-7	ガードパイプ清掃工	518
15)-8	橋梁付属物清掃工	519
16)	排水構造物清掃工	527
16)-1	管渠清掃工及び側溝清掃（組合せ作業）	527
16)-2	側溝清掃（単独作業）	531
16)-3	側溝清掃工（人力清掃工）	534
16)-4	集水桝清掃工（機械清掃工）	535
16)-5	集水桝清掃工（人力清掃工）	538
17)	トンネル清掃工	539
18)	トンネル照明器具清掃工	542
19)	トンネル漏水対策工	544
20)	沓座拡幅工	547
21)	桁連結工	549
22)	欠損部補修工	552
23)	路肩整正（人力による土はね）	553
24)	コンクリート接着工	555
25)	防護柵復旧工	556
26)	アスファルト舗装版削孔工	559
27)	仮覆工板設置・撤去工	561
28)	道路付属物のコンクリート面塗装工	563
29)	横断歩道橋補修工	565
30)	調整ポスト取付工	568

#### 第 4 章 共同溝工 ----- 569

1)	共同溝工	570
1)-1	共同溝工（1）	570
1)-2	共同溝工（2）	576
1)-3	送風機据付・撤去、運転工	597
1)-4	盛替えばり設置・撤去工	598
1)-5	防水工・防水層保護工	599
2)	電線共同溝工（C・C・BOX）	600
3)	情報ボックス工	611
4)	観測井戸設置工	620

#### 第 5 章 トンネル工 ----- 622

1) トンネル工 (NATM)	623
1)-1 トンネル工 (NATM) [発破工法]	623
1)-2 トンネル工 (NATM) [機械掘削工法]	669
1)-3 トンネル濁水処理工	705
1)-4 トンネル工 (NATM) 坑口工 (DⅢパターン)	708
1)-5 トンネル工 (NATM) 非常駐車帯工	740
1)-6 トンネル工 (NATM) 仮設備工 (防音扉工)	782
2) 小断面トンネル工 (NATM)	783
3) トンネル裏込め注入工	821

## 第 6 章 道路除雪工 825

1) 道路除雪工	826
----------	-----

## 第 7 章 橋梁工 843

1) 鋼橋製作工	844
2) 橋梁塗装工 (工場塗装及び塗装前処理)	864
3) 鋼橋架設工	867
4) プレビーム桁製作及び架設工	926
4)-1 プレビーム桁製作工 (現場)	926
4)-2 プレビーム桁架設工	936
5) 鋼橋床版工	942
6) グレーチング床版架設工及び足場工	945
7) ポストテンション桁製作工	948
8) プレキャストセグメント主桁組立工	952
9) PC 橋架設工	955
10) PC 橋片持架設工	976
11) ポストテンション場所打ホロースラブ橋工	1003
12) ポストテンション場所打箱桁橋工	1013
13) RC 場所打ホロースラブ橋工	1024
14) 架設支保工	1027
15) 伸縮装置工 (鋼製)	1036
16) 橋梁排水管設置工	1040
17) 歩道橋 (側道橋) 架設工	1042
18) 鋼製橋脚設置工	1053
19) 橋台・橋脚工	1060
19)-1 橋台・橋脚工 (1)	1060
19)-2 橋台・橋脚工 (2)	1077

## 第 V 編 公園

### 第 1 章 公園植栽工 1080

1) 公園植栽工	1081
2) 公園除草工	1091
3) 公園工	1097

## 第III編 河川

第 1 章 河川海岸.....	2
第 2 章 河川維持工.....	67
第 3 章 砂防工.....	159
第 4 章 地すべり防止工.....	256



## 第 1 章 河川海岸

1)	消波根固めブロック工	3
1)-1	消波根固めブロック工	3
1)-2	消波根固めブロック工（ブロック撤去工）（0.25t 以上 35.5t 以下）	14
1)-3	消波根固めブロック給熱養生工	18
2)	捨石工	20
3)	消波工	23
4)	浚渫工	39
4)-1	浚渫工（ポンプ式浚渫船）	39
4)-2	浚渫工（バックホウ浚渫船）	57
5)	軟弱地盤上における柔構造樋門・樋管工	63

## 1) 消波根固めブロック工

### 1)-1 消波根固めブロック工

#### 1. 適用範囲

本資料は、河川、砂防、海岸、道路工事に使用する消波根固めブロックの現地製作、陸上よりの敷設工事に適用する。

##### 1-1 適用できる範囲

###### 1-1-1 消波根固めブロック製作

- (1) 11.0t 以下（実質量とする）の消波根固めブロックの現地製作の場合

###### 1-1-2 消波根固めブロック据付

- (1) 11.0t 以下（実質量とする）の消波根固めブロックの陸上よりの敷設の場合
- (2) 11.0t 以下（実質量とする）の消波根固めブロックの荷卸のみの場合

###### 1-1-3 消波根固めブロック運搬

- (1) 11.0t 以下（実質量とする）の消波根固めブロックのトラックによる運搬の場合

###### 1-1-4 消波根固めブロック仮置

- (1) 11.0t 以下（実質量とする）の消波根固めブロックの横取り～積込～運搬～荷卸の一連作業を行う場合

##### 1-2 適用できない範囲

###### 1-2-1 消波根固めブロック製作

- (1) 11.0t を超える（実質量とする）消波根固めブロックの現地製作の場合（「第 III 編 第 1 章 3)消波工」による）

###### 1-2-2 消波根固めブロック据付

- (1) 11.0t を超える（実質量とする）消波根固めブロックの陸上よりの敷設の場合

###### 1-2-3 消波根固めブロック運搬

- (1) 11.0t を超える（実質量とする）消波根固めブロックのトラックによる運搬の場合

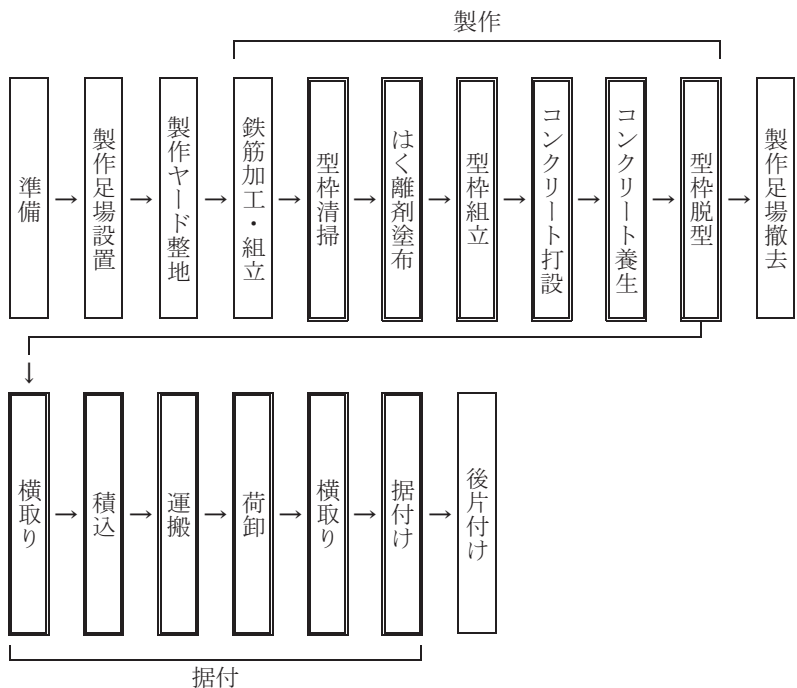
###### 1-2-4 消波根固めブロック仮置

- (1) 11.0t を超える（実質量とする）消波根固めブロックの横取り～積込～運搬～荷卸の一連作業を行う場合

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。

2-1 製作, 運搬, 据付

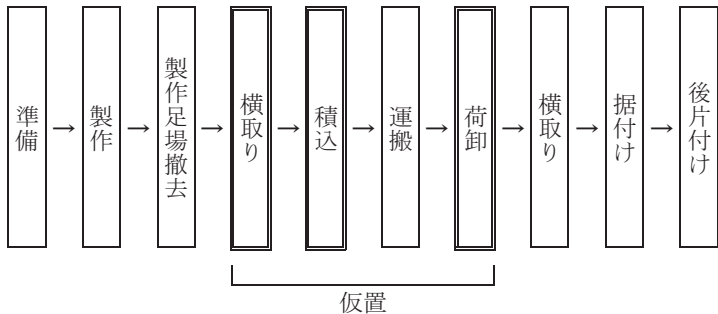


- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。  
 2. 現場条件により作業工程に色々な組合せがあるが、据付を行わない場合は「2-2 仮置」で計上する。  
 3. 据付は連結金具の有無にかかわらず適用できる。

なお、ブロック製作後の各工程の作業内容については下記による。

- (1) 横取り：ブロックの移動（型枠脱型場所～製作場所仮置場又は据付場所仮置場～据付場所）を目的としたもので、クレーンによるブロックの移動距離 50m 未満の範囲内の作業をいう。  
 ただし、クレーンの範囲内で、型枠脱型場所から直接製作場所仮置場へ現場内小運搬をする場合は「型枠脱型」として取り扱う。
- (2) 運搬：トラック等による運搬作業をいう。ただし、運搬距離が 50m 未満の場合は横取りとして取り扱う。
- (3) 荷卸し：トラック等から地面に置く作業をいう。  
 一旦地面に置くことなく、直接ブロック据付作業を行う場合は据付作業とする。

2-2 仮置



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。  
 2. 運搬については「2-1 製作, 運搬, 据付」の運搬を計上する。

仮置：横取り～積込～運搬～荷卸の一連作業を行う場合の仮置き作業をいう。

3. 施工パッケージ

3-1 消波根固めブロック製作【SPK14040106】

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3.1 消波根固めブロック製作 積算条件区分一覧 (積算単位：個)

消波根固め ブロック規格	型枠の種類	生コンクリート 規格	1個当りコンクリート 設計量(m3/個)	1個当り型枠面積 (m2/個)	養生工の種類別
2.5t 以下	鋼製型枠・FRP 製型枠	(表 3.2)	(表 3.3)	(表 3.3)	一般
	直積ブロック用鋼製型枠				給熱
2.5t を超え 5.5t 以下	鋼製型枠・FRP 製型枠		(表 3.4)	(表 3.4)	一般
	直積ブロック用鋼製型枠				給熱
5.5t を超え 11.0t 以下	鋼製型枠・FRP 製型枠		(表 3.5)	(表 3.5)	一般
	直積ブロック用鋼製型枠				給熱

- (注) 1. 上表は、消波根固めブロックの製作（現地で製作するコンクリート投入打設、型枠の組立・脱型及び清掃、はく離剤塗布）、養生の他、コンクリート打設小器材、型枠はく離剤、インパクトレンチ損料、養生シート、電力に関する経費等、その施工に要する全ての機械・労務・材料費（損料を含む）を含む。  
 2. コンクリートの材料ロスを含む。  
 3. 鉄筋（連結用フック含む）の加工・組立費用及び材料費は、「第 VI 編 第 2 章 1)-1 鉄筋工」による。  
 4. 給熱養生の場合は「1)-3 消波根固めブロック給熱養生工」を別途計上する。

表 3.2 生コンクリート規格

種別	種別	種別
18-5-40 (普通)	21-8-40 (普通)	21-5-40 (高炉)
18-8-25(20) (普通)	21-12-25(20) (普通)	21-8-25(20) (高炉)
18-8-40 (普通)	21-12-40 (普通)	21-8-40 (高炉)
18-12-25(20) (普通)	18-5-40 (高炉)	24-8-25(20) (高炉)
18-12-40 (普通)	18-8-40 (高炉)	27-5-40 (高炉)
19.5-8-40 (普通)	19.5-5-40 (高炉)	各種
21-8-25(20) (普通)	19.5-8-40 (高炉)	

表 3.3 1 個当りコンクリート設計量-1 個当り型枠面積の区分表

【消波根固めブロック規格：2.5t 以下】

1 個当りコンクリート設計量(m3)	1 個当り型枠面積(m2)	1 個当りコンクリート設計量(m3)	1 個当り型枠面積(m2)
0.17m3 以上 0.23m3 以下	2.00m2 以上 2.20m2 以下	0.57m3 超え 0.64m3 以下	3.50m2 以上 3.96m2 以下
	2.20m2 超え 2.40m2 以下		3.96m2 超え 4.42m2 以下
	2.40m2 超え 2.60m2 以下		4.42m2 超え 4.88m2 以下
	2.60m2 超え 2.80m2 以下		4.88m2 超え 5.34m2 以下
	2.80m2 超え 3.00m2 以下		5.34m2 超え 5.80m2 以下
0.23m3 超え 0.28m3 以下	2.20m2 以上 2.43m2 以下	0.64m3 超え 0.71m3 以下	3.75m2 以上 4.27m2 以下
	2.43m2 超え 2.66m2 以下		4.27m2 超え 4.78m2 以下
	2.66m2 超え 2.89m2 以下		4.78m2 超え 5.29m2 以下
	2.89m2 超え 3.12m2 以下		5.29m2 超え 5.8m2 以下
	3.12m2 超え 3.35m2 以下		5.8m2 超え 6.31m2 以下
0.28m3 超え 0.33m3 以下	2.37m2 以上 2.64m2 以下	0.71m3 超え 0.79m3 以下	4.06m2 以上 4.62m2 以下
	2.64m2 超え 2.91m2 以下		4.62m2 超え 5.18m2 以下
	2.91m2 超え 3.18m2 以下		5.18m2 超え 5.74m2 以下
	3.18m2 超え 3.45m2 以下		5.74m2 超え 6.30m2 以下
	3.45m2 超え 3.72m2 以下		6.30m2 超え 6.86m2 以下
0.33m3 超え 0.39m3 以下	2.59m2 以上 2.90m2 以下	0.79m3 超え 0.86m3 以下	4.28m2 以上 4.90m2 以下
	2.90m2 超え 3.21m2 以下		4.90m2 超え 5.52m2 以下
	3.21m2 超え 3.52m2 以下		5.52m2 超え 6.14m2 以下
	3.52m2 超え 3.83m2 以下		6.14m2 超え 6.76m2 以下
	3.83m2 超え 4.14m2 以下		6.76m2 超え 7.38m2 以下
0.39m3 超え 0.45m3 以下	2.81m2 以上 3.16m2 以下	0.86m3 超え 0.94m3 以下	4.58m2 以上 5.26m2 以下
	3.16m2 超え 3.51m2 以下		5.26m2 超え 5.93m2 以下
	3.51m2 超え 3.86m2 以下		5.93m2 超え 6.60m2 以下
	3.86m2 超え 4.21m2 以下		6.60m2 超え 7.27m2 以下
	4.21m2 超え 4.56m2 以下		7.27m2 超え 7.94m2 以下
0.45m3 超え 0.51m3 以下	3.04m2 以上 3.43m2 以下	0.94m3 超え 1.04m3 以下	4.92m2 以上 5.66m2 以下
	3.43m2 超え 3.82m2 以下		5.66m2 超え 6.39m2 以下
	3.82m2 超え 4.21m2 以下		6.39m2 超え 7.12m2 以下
	4.21m2 超え 4.60m2 以下		7.12m2 超え 7.85m2 以下
	4.60m2 超え 4.99m2 以下		7.85m2 超え 8.58m2 以下
0.51m3 超え 0.57m3 以下	3.25m2 以上 3.69m2 以下	1.04m3 超え 1.13m3 以下	5.25m2 以上 6.05m2 以下
	3.69m2 超え 4.12m2 以下		6.05m2 超え 6.84m2 以下
	4.12m2 超え 4.55m2 以下		6.84m2 超え 7.63m2 以下
	4.55m2 超え 4.98m2 以下		7.63m2 超え 8.42m2 以下
	4.98m2 超え 5.41m2 以下		8.42m2 超え 9.21m2 以下

表 3.4 1 個当りコンクリート設計量-1 個当り型枠面積の区分表

【消波根固めブロック規格：2.5t 超え 5.5t 以下】

1 個当りコンクリート設計量(m3)	1 個当り型枠面積(m2)	1 個当りコンクリート設計量(m3)	1 個当り型枠面積(m2)
1.05m3 以上 1.15m3 以下	5.14m2 以上 5.94m2 以下	1.73m3 超え 1.87m3 以下	6.61m2 以上 7.81m2 以下
	5.94m2 超え 6.73m2 以下		7.81m2 超え 9.00m2 以下
	6.73m2 超え 7.52m2 以下		9.00m2 超え 10.19m2 以下
	7.52m2 超え 8.31m2 以下		10.19m2 超え 11.38m2 以下
	8.31m2 超え 9.10m2 以下		11.38m2 超え 12.57m2 以下
1.15m3 超え 1.25m3 以下	5.35m2 以上 6.21m2 以下	1.87m3 超え 2.01m3 以下	6.91m2 以上 8.19m2 以下
	6.21m2 超え 7.06m2 以下		8.19m2 超え 9.46m2 以下
	7.06m2 超え 7.91m2 以下		9.46m2 超え 10.73m2 以下
	7.91m2 超え 8.76m2 以下		10.73m2 超え 12.00m2 以下
1.25m3 超え 1.37m3 以下	8.76m2 超え 9.61m2 以下	2.01m3 超え 2.17m3 以下	12.00m2 超え 13.27m2 以下
	5.58m2 以上 6.50m2 以下		7.24m2 以上 8.60m2 以下
	6.50m2 超え 7.41m2 以下		8.60m2 超え 9.95m2 以下
	7.41m2 超え 8.32m2 以下		9.95m2 超え 11.3m2 以下
1.37m3 超え 1.48m3 以下	8.32m2 超え 9.23m2 以下	2.17m3 超え 2.33m3 以下	11.3m2 超え 12.65m2 以下
	9.23m2 超え 10.14m2 以下		12.65m2 超え 14.00m2 以下
	5.87m2 以上 6.83m2 以下		7.53m2 以上 8.99m2 以下
	6.83m2 超え 7.80m2 以下		8.99m2 超え 10.45m2 以下
1.48m3 超え 1.61m3 以下	7.80m2 超え 8.77m2 以下	2.33m3 超え 2.51m3 以下	10.45m2 超え 11.91m2 以下
	8.77m2 超え 9.74m2 以下		11.91m2 超え 13.37m2 以下
	9.74m2 超え 10.71m2 以下		13.37m2 超え 14.83m2 以下
	6.04m2 以上 7.08m2 以下		7.95m2 以上 9.49m2 以下
1.61m3 超え 1.73m3 以下	7.08m2 超え 8.12m2 以下		9.49m2 超え 11.02m2 以下
	8.12m2 超え 9.16m2 以下		11.02m2 超え 12.55m2 以下
	9.16m2 超え 10.2m2 以下		12.55m2 超え 14.08m2 以下
	10.2m2 超え 11.24m2 以下		14.08m2 超え 15.61m2 以下
1.73m3 超え 1.87m3 以下	6.34m2 以上 7.46m2 以下		
	7.46m2 超え 8.58m2 以下		
	8.58m2 超え 9.70m2 以下		
	9.70m2 超え 10.82m2 以下		
1.87m3 超え 2.01m3 以下	10.82m2 超え 11.94m2 以下		

表 3.5 1 個当りコンクリート設計量-1 個当り型枠面積の区分表

【消波根固めブロック規格：5.5t 超え 11.0t 以下】

1 個当りコンクリート設計量 (m3)	1 個当り型枠面積 (m2)	1 個当りコンクリート設計量 (m3)	1 個当り型枠面積 (m2)
2.20m3 以上 2.40m3 以下	10.01m2 以上 11.59m2 以下	3.45m3 超え 3.70m3 以下	12.23m2 以上 14.51m2 以下
	11.59m2 超え 13.15m2 以下		14.51m2 超え 16.79m2 以下
	13.15m2 超え 14.73m2 以下		16.79m2 超え 19.07m2 以下
2.40m3 超え 2.60m3 以下	10.38m2 以上 12.08m2 以下	3.70m3 超え 3.96m3 以下	12.86m2 以上 15.28m2 以下
	12.08m2 超え 13.76m2 以下		15.28m2 超え 17.70m2 以下
	13.76m2 超え 15.46m2 以下		17.70m2 超え 20.12m2 以下
2.60m3 超え 2.80m3 以下	10.74m2 以上 12.56m2 以下	3.96m3 超え 4.23m3 以下	13.33m2 以上 15.93m2 以下
	12.56m2 超え 14.36m2 以下		15.93m2 超え 18.51m2 以下
	14.36m2 超え 16.18m2 以下		18.51m2 超え 21.11m2 以下
2.80m3 超え 3.00m3 以下	11.12m2 以上 13.04m2 以下	4.23m3 超え 4.53m3 以下	13.87m2 以上 16.61m2 以下
	13.04m2 超え 14.96m2 以下		16.61m2 超え 19.35m2 以下
	14.96m2 超え 16.88m2 以下		19.35m2 超え 22.09m2 以下
3.00m3 超え 3.22m3 以下	11.51m2 以上 13.53m2 以下	4.53m3 超え 4.84m3 以下	14.45m2 以上 17.37m2 以下
	13.53m2 超え 15.55m2 以下		17.37m2 超え 20.27m2 以下
	15.55m2 超え 17.57m2 以下		20.27m2 超え 23.19m2 以下
3.22m3 超え 3.45m3 以下	11.94m2 以上 14.10m2 以下		
	14.10m2 超え 16.24m2 以下		
	16.24m2 超え 18.40m2 以下		

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表 3.6 消波根固めブロック製作 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)]25t 吊	賃料
	K2	-	
	K3	-	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	-	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 21-8-25(20) W/C55%	
	Z2	鋼製型枠 異形ブロック 30t 未満	賃料
	Z3	-	
	Z4	-	
市場単価	S	-	

3-2 消波根固めブロック据付【SPK14040107】

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3.7 消波根固めブロック据付 積算条件区分一覧

(積算単位：個)

消波根固め ブロック 規格	据付場所	製作ヤード又は 仮置きヤードで の横取り作業	積込作業の 有無	荷卸作業の 有無	据付現場ヤー ドでの横取り 作業の有無	消波根固めブロッ ク 10 個当り連結 金具設置数量	据付 方法	クレーン 機種
(表 3.8)	陸上	有り (1回)	有り (1回)	有り(1回)	有り (1回)	実数入力	乱積	(表 3.9)
				無し	無し		層積	
			無し	有り(1回)	有り (1回)		乱積	
				無し	無し		層積	
		無し	無し	無し	有り (1回)		乱積	
					無し		層積	
			有り (1回)	有り (1回)	有り(1回)		乱積	
					無し		層積	
	水中	有り (1回)	有り (1回)	有り(1回)	有り (1回)		乱積	
				無し	無し		層積	
			無し	有り (1回)	有り(1回)		乱積	
					無し		層積	
		無し	有り (1回)	無し	有り (1回)		乱積	
					無し		層積	
			有り (1回)	有り (1回)	有り(1回)		乱積	
					無し		層積	
据付作業無し	無し	無し	有り (1回)	無し	—	—		

- (注) 1. 上表は、消波根固めブロックの横取り・積込み・荷卸・据付けの他、連結金具、ワイヤーロープ等、その施工に要する全ての機械・労務・材料費（損料を含む）を含む。
2. 据付け（水中）とは、据付作業の内、玉外し作業又はブロックの据付位置の確認作業を水中で行う場合に適用する。
3. 横取り作業は、クレーンによるブロックの移動距離 50m 未満の範囲とする。

表 3.8 消波根固めブロック規格

積算条件	区分
消波根固めブロック規格	2.5t 以下
	2.5t を超え 5.5t 以下
	5.5t を超え 11.0t 以下

表 3.9 クレーン機種

積算条件	区分
クレーン機種	ラフテレーンクレーン（油圧伸縮ジブ型）25t 吊
	ラフテレーンクレーン（油圧伸縮ジブ型）35t 吊
	ラフテレーンクレーン（油圧伸縮ジブ型）45t 吊
	ラフテレーンクレーン（油圧伸縮ジブ型）50t 吊



## (2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.10 消波根固めブロック据付 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第 1 次基準値)]25t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第 1 次基準値)]35t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第 1 次基準値)]45t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第 1 次基準値)] 50t 吊	賃料
	K2	-	
	K3	-	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
		潜水連絡員	据付場所が「水中」の場合
	R3	土木一般世話役	
R4	潜水士	据付場所が「水中」の場合	
材料	Z1	連結金具(根固めブロック用)φ16	
	Z2	-	
	Z3	-	
	Z4	-	
市場単価	S	-	

3-3 消波根固めブロック運搬【SPK14040108】

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3.11 消波根固めブロック運搬 積算条件区分一覧 (積算単位：個)

消波根固め ブロック規格	作業区分	トラック 1 台当り ブロック積載個数	トラック 1 台当り 運搬距離
2.5t 以下	積込・荷卸	(表 3.12)	(表 3.13)
	積込・据付(乱積)		
	積込・据付(層積)		
2.5t を超え 5.5t 以下	積込・荷卸		
	積込・据付(乱積)		
	積込・据付(層積)		
5.5t を超え 11.0t 以下	積込・荷卸		
	積込・据付(乱積)		
	積込・据付(層積)		

(注) 上表は、消波根固めブロックの仮置時又は据付時の運搬、ワイヤーロープ等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

表 3.12 トラック 1 台当りブロック積載個数 (n)

積算条件	2.5t 以下	2.5t を超え 5.5t 以下	5.5t を超え 11.0t 以下
トラック 1 台当り ブロック積載個数	1 個	1 個	1 個
	2 個		
	3 個		
	4 個	2 個	
	5 個		
	6 個		
	7 個	3 個	2 個
	8 個		
	9 個		
	10 個	4 個	
	11 個以上 15 個以下		
	15 個超 23 個以下		

(注) トラック 1 台当りブロック積載個数 (n) はブロックの形状、寸法及びトラック等の荷台寸法、積載質量を考慮して決定するが、一般の場合は下記による。

$$n = X/W \text{ (小数以下切り捨て)}$$

X : トラック等の積載質量 (t)

W : ブロック 1 個当りの質量 (実質量) (t)

表 3.13 トラック 1 台当り運搬距離

積算条件	区分
トラック1台当り運搬距離	0.5km以下
	1.0km以下
	1.5km以下
	2.0km以下
	2.5km以下
	3.0km以下
	3.5km以下
	4.0km以下
	4.5km以下
	5.0km以下
	5.5km以下
	6.0km以下
	6.5km以下
	7.0km以下
	7.5km以下
8.5km以下	
9.5km以下	
10.5km以下	
11.5km以下	
12.5km以下	
14.0km以下	
15.0km以下	

(注) 1. 運搬距離は片道であり，往路と復路が異なる場合は，平均値とする。

2. 片道運搬距離が 15km を超える場合は，別途考慮すること。

## (2) 代表機労材規格

下表機労材は，当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.14 消波根固めブロック運搬 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
機械	K1 トラック[普通型]11t 積	
	K2 -	
	K3 -	
労務	R1 一般運転手	
	R2 -	
	R3 -	
	R4 -	
材料	Z1 軽油 1.2 号パトロール給油	
	Z2 -	
	Z3 -	
	Z4 -	
市場単価	S -	

3-4 消波根固めブロック仮置【SPK14040109】

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3.15 消波根固めブロック仮置 積算条件区分一覧 (積算単位：個)

消波根固めブロック規格	仮置きヤードでの横取り作業の有無	クレーン機種
2.5t 以下	有り	(表 3.16)
	無し	
2.5t を超え 5.5t 以下	有り	
	無し	
5.5t を超え 11.0t 以下	有り	
	無し	

- (注) 1. 上表は、消波根固めブロックの仮置時の積込み・荷卸・横取り、ワイヤーロープ、仮置きヤードでの養生等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。  
 2. 横取り作業は、クレーンによるブロックの移動距離 50m 未満の範囲とする。  
 3. 横取り作業は 1 回のみとする。

表 3.16 クレーン機種

積算条件	区分
クレーン機種	ラフテレーンクレーン（油圧伸縮ジブ型）25t 吊
	ラフテレーンクレーン（油圧伸縮ジブ型）35t 吊
	ラフテレーンクレーン（油圧伸縮ジブ型）45t 吊
	ラフテレーンクレーン（油圧伸縮ジブ型）50t 吊

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.17 消波根固めブロック仮置 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)]25t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)]35t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)]45t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)]50t 吊	賃料
	K2	-	
	K3	-	
労務	R1	土木一般世話役	
	R2	特殊作業員	
	R3	普通作業員	
	R4	-	
材料	Z1	-	
	Z2	-	
	Z3	-	
	Z4	-	
市場単価	S	-	

**1)-2 消波根固めブロック工（ブロック撤去工）（0.25t 以上 35.5t 以下）****1. 適用範囲**

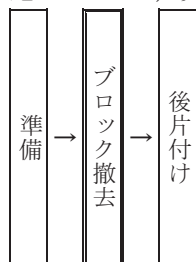
本資料は、根固め工における根固めブロック撤去に適用する。

**1-1 適用出来る範囲**

- (1) ブロック質量が 0.25t 以上 35.5t 以下（実質量とする）の場合
- (2) 撤去・仮置きの場合（撤去したブロックを直接河川敷等のヤードに仮置きする場合）
- (3) 撤去・据付けの場合（既設ブロック又は仮設的に設置されたブロックを仮置きせずに据直す場合）
- (4) 撤去・積込みの場合（撤去したブロックを直接トレーラ等に積込む場合）

**2. 施工概要**

施工フローは、次図を標準とする。



（注）本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

3. 施工パッケージ

3-1 根固めブロック撤去【SPK14040110】

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表 3.1 根固めブロック撤去 積算条件区分一覧 (積算単位：個)

ブロック質量	作業区分	堆砂の有無	クレーン機種
0.25t 以上 6.5t 以下	撤去・仮置き	無し	(表 3.2)
		有り	
	撤去・据付け(乱積)	無し	
		有り	
	撤去・据付け(層積)	無し	
		有り	
	撤去・積込み	無し	
		有り	
6.5t 超 12.5t 以下	撤去・仮置き	無し	
		有り	
	撤去・据付け(乱積)	無し	
		有り	
	撤去・据付け(層積)	無し	
		有り	
	撤去・積込み	無し	
		有り	
12.5t 超 35.5t 以下	撤去・仮置き	無し	
		有り	
	撤去・据付け(乱積)	無し	
		有り	
	撤去・据付け(層積)	無し	
		有り	
	撤去・積込み	無し	
		有り	

- (注) 1. 「撤去・仮置き」：撤去したブロックを直接河川敷等のヤードに仮置きする場合である。直接トレーラに積む場合は「撤去・積込み」を適用する。
2. 「撤去・据付け」：既設ブロック又は仮設的に設置（仮置きを含む）されたブロックを仮置きせずに直接据え直す（据付ける）場合である。「乱積、層積」の区分は、既存の積形状によらず、新たに据付ける積形状により判断する。
3. 上表は、下記の費用が含まれる。
- (1) 撤去・仮置きの場合
    - ・ 消波根固めブロックの撤去・仮置きその他、ワイヤーロープ等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
  - (2) 撤去・据付け（乱積）の場合
    - ・ 消波根固めブロックの撤去・据付け（乱積）その他、ワイヤーロープ等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
  - (3) 撤去・据付け（層積）の場合
    - ・ 消波根固めブロックの撤去・据付け（層積）その他、ワイヤーロープ等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
  - (4) 撤去・積込みの場合
    - ・ 消波根固めブロックの撤去・積込みその他、ワイヤーロープ等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
4. 堆砂の有無の「有り」は、根固めブロック上に砂が堆積している場合に適用する。

表 3.2 クレーン機種

積算条件	区分
クレーン機種	ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型)20t 吊
	ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型)25t 吊
	ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型)35t 吊
	ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型)45t 吊
	ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型)50t 吊
	クローラクレーン(機械駆動式ウインチ・ラチスジブ型)35~40t 吊
	クローラクレーン(機械駆動式ウインチ・ラチスジブ型)45~50t 吊
	クローラクレーン(機械駆動式ウインチ・ラチスジブ型)80t 吊
	クローラクレーン(機械駆動式ウインチ・ラチスジブ型)100t 吊
	クローラクレーン(機械駆動式ウインチ・ラチスジブ型)150t 吊
	クローラクレーン(油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型)30~35t 吊
	クローラクレーン(油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型)40~45t 吊
	クローラクレーン(油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型)50~55t 吊
	クローラクレーン(油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型)60~65t 吊
	クローラクレーン(油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型)80t 吊
	クローラクレーン(油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型)100t 吊
	クローラクレーン(油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型)150t 吊

## (2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.3 根固めブロック撤去 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)]20t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)]25t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)]35t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)]45t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)]50t 吊	賃料
		クローラクレーン[機械駆動ウインチ・ラチスジブ]35～40t 吊	
		クローラクレーン[機械駆動ウインチ・ラチスジブ]45～50t 吊	
		クローラクレーン[機械駆動ウインチ・ラチスジブ]80t 吊	
		クローラクレーン[機械駆動ウインチ・ラチスジブ]100t 吊	
		クローラクレーン[機械駆動ウインチ・ラチスジブ]150t 吊	
		クローラクレーン[油圧駆動ウインチ・ラチスジブ]30～35t 吊	
		クローラクレーン[油圧駆動ウインチ・ラチスジブ]40～45t 吊	
		クローラクレーン[油圧駆動ウインチ・ラチスジブ]50～55t 吊	
		クローラクレーン[油圧駆動ウインチ・ラチスジブ]60～65t 吊	
		クローラクレーン[油圧駆動ウインチ・ラチスジブ]80t 吊	
		クローラクレーン[油圧駆動ウインチ・ラチスジブ]100t 吊	
		クローラクレーン[油圧駆動ウインチ・ラチスジブ]150t 吊	
		K2	—
K3	—		
労務	R1	土木一般世話役	
	R2	特殊作業員	
	R3	普通作業員	
	R4	運転手(特殊)	クローラクレーンの場合
材料	Z1	軽油 1.2 号パトロール給油	クローラクレーンの場合
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	



## 1)-3 消波根固めブロック給熱養生工

## 1. 適用範囲

本資料は、河川、砂防、海岸、道路工事に使用する 35.5t 以下（実質量）の消波根固めブロックの現地製作における給熱養生工に適用する。

## 2. 給熱養生工

## 2-1 給熱養生工（ブロック実質量 12.5t 以下）

歩掛は、次表を標準とする。

表 2.1 給熱養生工（12.5t 以下）歩掛 (100m<sup>3</sup> 当り)

名称	規格	単位	ブロック実質量			
			0.25t 以上 2.2t 以下	2.2t を超え 4.5t 以下	4.5t を超え 6.5t 以下	6.5t を超え 12.5t 以下
土木一般世話役		人	1.7	1.1	0.9	0.7
普通作業員		〃	10.8	6.5	5.2	4.1
練炭	高 4 号	個	424	243	188	139
諸雑費		%	6			

- (注) 1. 給熱養生は、練炭を使用した場合である。  
 2. 上記は給熱養生を 3 日程度としたもので、養生囲いの設置・撤去を含んでいる。  
 3. 諸雑費は、練炭火鉢及び養生囲い材料（シート、栈木等）等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

## 2-2 給熱養生工（ブロック実質量 12.5t を超え 35.5t 以下）

歩掛は、次表を標準とする。

表 2.2 給熱養生工（12.5t を超え 35.5t 以下）歩掛 (100m<sup>3</sup> 当り)

名称	規格	単位	ブロック実質量
			12.5t を超え 35.5t 以下
土木一般世話役		人	0.30
普通作業員		〃	1.70
練炭	高 4 号	個	126.00
シート	3.6m×5.4m	枚	29.30
麻袋	105cm×60cm	袋	41.00
クレーン運転		日	0.16

- (注) 1. 給熱養生は、練炭を使用した場合である。  
 2. 上記は給熱養生を 3 日程度としている。  
 3. クレーンの機械・機種はブロック製作・横取り・積込で選定されたクレーンを適用する。  
 なお、ラフテレーンクレーン、クローラクレーンは賃料とする。  
 4. 転用回数として、シートは 12 回、麻袋は 9 回を標準とする。

## 3. 単価表

## (1) 消波根固めブロック (12.5t 以下) 給熱養生工 10 個当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	$(表 2.1) \times V / 100 \times 10$	
普通作業員		〃	$(表 2.1) \times V / 100 \times 10$	
練炭	高 4 号	個	$(表 2.1) \times V / 100 \times 10$	
諸雑費		式	1	表 2.1
計				

(注) V : ブロック 1 個当りコンクリート設計量 (m<sup>3</sup>)

## (2) 消波根固めブロック (12.5t を超え 35.5t 以下) 給熱養生工 10 個当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	$0.30 \times V / 100 \times 10$	表 2.2
普通作業員		〃	$1.70 \times V / 100 \times 10$	〃
練炭	高 4 号	個	$126.00 \times V / 100 \times 10$	〃
シート	3.6m×5.4m	枚	$29.30 \times V / 100 \times 10$	〃
麻袋	105cm×60cm	袋	$41.00 \times V / 100 \times 10$	〃
クレーン運転		日	$0.16 \times V / 100 \times 10$	〃
諸雑費		式	1	
計				

(注) V : ブロック 1 個当りコンクリート設計量 (m<sup>3</sup>)

## (3) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
クローラクレーン	〇〇t 吊	機-27	運転時間 6.4h/日

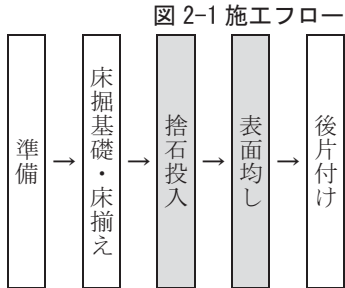
## 2) 捨石工

### 1. 適用範囲

本資料は、河川及び海岸工事における護岸の根固めを目的とした、捨石工（捨石質量 1,000kg 以下/個）の陸上からの施工に適用する。

### 2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本歩掛に対応しているのは、着色部分のみである。

### 3. 機種の選定

#### 3-1 捨石投入

捨石投入に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表 3.1 機種の選定

機械名	規格	単位	数量		摘要
			最大作業半径 9m 以下	最大作業半径 9m を超え 24m 以下	
バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型 (第 2 次基準値) 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> )	台	1	1	
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	〃	—	1	

(注) 1. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

2. バックホウ（クローラ）について捨石規格，作業半径，現場条件により，上表により難しい場合は，別途考慮する。

3. クレーンについて捨石規格，作業半径，現場条件により，上表により難しい場合は，別途機械・規格を選定する。

#### 3-2 表面均し

表面均しに使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表 3.2 機種の選定

機械名	規格	単位	数量	摘要
バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型 (第 2 次基準値) 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> )	台	1	

(注) 捨石規格，作業半径，現場条件により，上表により難しい場合は，別途考慮する。

## 4. 施工歩掛

## 4-1 捨石投入

捨石投入の 100m<sup>3</sup> 当り歩掛は、次表とする。

表 4.1 捨石投入歩掛 (100m<sup>3</sup> 当り)

名称	単位	数量		摘要
		最大作業半径 9m 以下	最大作業半径 9m を超え 24m 以下	
土木一般世話役	人	0.50	0.42	
特殊作業員	〃	—	0.57	
普通作業員	〃	0.69	0.94	
バックホウ(クローラ型)運転	h	7.6	6.2	
ラフテレーンクレーン運転	日	—	0.81	

(注) 1. 現場条件により、上表により難しい場合は、別途考慮する。

2. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

## 4-2 表面均し

表面均しの 100m<sup>2</sup> 当り歩掛は、次表とする。

表面均し箇所は、施工期間中の平均水位以上の陸上とし、潜水士等を用いて水中部の表面を均す場合は、別途考慮する。

表 4.2 表面均し歩掛 (100m<sup>2</sup> 当り)

名称	単位	数量	摘要
土木一般世話役	人	0.71	
普通作業員	〃	1.80	
バックホウ(クローラ型)運転	h	9.0	

(注) 1. 人力による間詰、中詰石の現場内小運搬を含む。

2. 現場条件により、上表により難しい場合は、別途考慮する。

## 4-3 材料使用量

捨石材料の使用量は、設計量に次表のロス率を割増しする。

使用量 (m<sup>3</sup>) = 設計量 (m<sup>3</sup>) × (1+K) …式 4.1

表 4.3 ロス率 (K)

ロス率	0.21
-----	------

(注) 1. 上表のロス率には、間詰、中詰石の数量を含む。

2. 現場条件(軟弱地盤等)で、上表により難しい場合は、別途考慮する。

## 4-4 諸雑費

諸雑費は、ワイヤモッコの費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 4.4 諸雑費率 (%)

諸雑費率	3
------	---

(注) 上表の諸雑費率は、捨石投入の最大作業半径 9m を超え 24m 以下の施工に適用する。

## 5. 単価表

(1) 捨石投入 100m<sup>3</sup> 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人		表 4.1
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
捨石		m <sup>3</sup>	121	式 4.1, 表 4.3
バックホウ(クローラ型)運転	標準型・排出ガス対策型 (第 2 次基準値) 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> )	h		表 4.1
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 油圧伸縮ジブ型・25t 吊	日		〃
諸雑費		式	1	表 4.4
計【S1101】				

(2) 表面均し 100m<sup>2</sup> 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	0.71	表 4.2
普通作業員		〃	1.8	〃
バックホウ(クローラ型)運転	標準型・排出ガス対策型 (第 2 次基準値) 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> )	h	9.0	〃
諸雑費		式	1	
計【S1103】				

## (3) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ(クローラ型)	標準型・排出ガス対策型 (第 2 次基準値)山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> )	機-1	

### 3) 消波工

#### 1. 適用範囲

本資料は、海岸工事における離岸堤、消波堤、突堤等の海上作業における捨石均し工及びブロック 50.0t 以下（実質量とする）製作・据付工であり作業場所（ブロック積込場所からブロック据付場所までの間）に適用する。

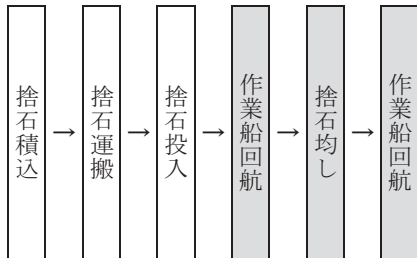
##### (1) 作業可能日数

海上作業における作業可能日数は、近傍の気象・海象（風向、風速、波高、潮位、潮流等）資料ならびに作業方法、施工実績等をもとに決定する。

#### 2. 施工概要

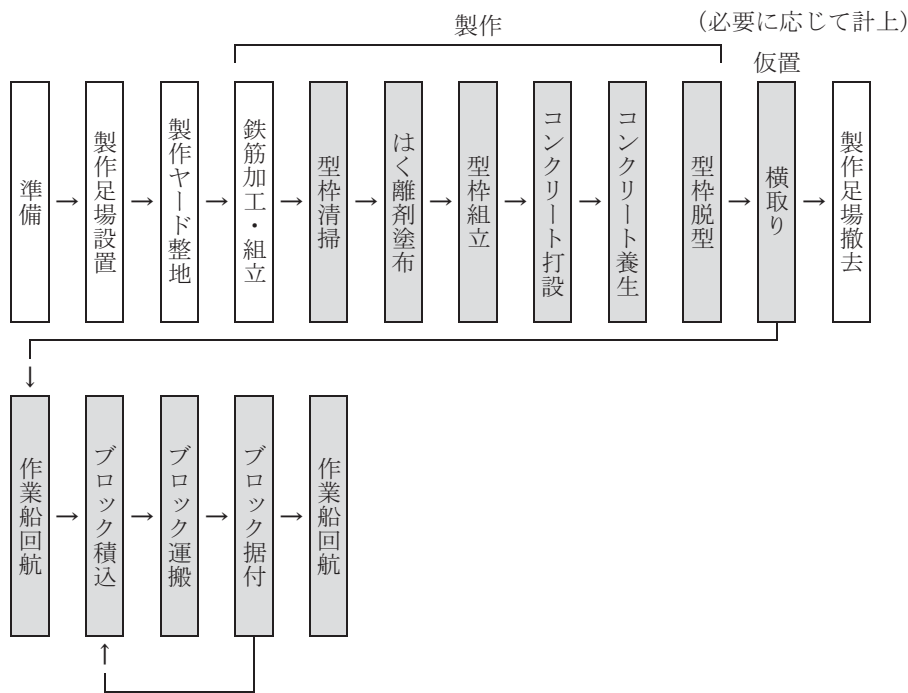
施工フローは、下記を標準とする。

##### (1) 捨石均し工



(注) 本歩掛で対応しているのは着色部分のみである。

##### (2) ブロック製作・据付工



(注) 1. 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

2. ブロック据付工のブロック製作歩掛のうちブロック実質量 11.0t 以下のブロック製作は「第 III 編 第 1 章 1)-1 消波根固めブロック工」を使用する。

3. 横取りとは、ブロックの移動(型枠脱型場所～製作場所仮置場又は据付場所仮置場～据付場所)を目的としたもので、クレーンによるブロックの移動距離 50m 未満の範囲内の作業をいう。

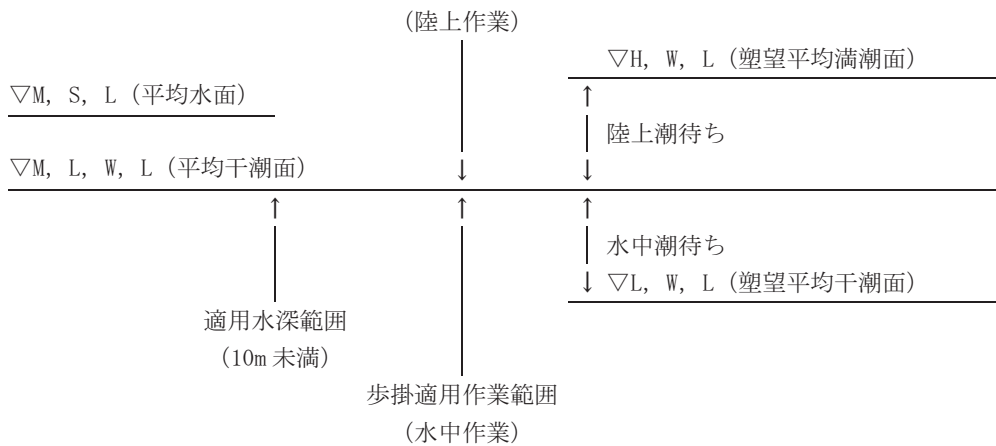
ただし、クレーンの範囲内で、型枠脱型場所から直接製作場所仮置場へ現場内小運搬を行うことが可能な場合は「型枠脱型」として取り扱う。

### 3. 捨石均し工

捨石均しは、平均干潮面 (M, L, W, L) から水深 10m 未満の水中作業に適用する。なお、均しの定義は次による。

- (1) 本均し：ケーソン等を載せる表面の均し。
- (2) 荒均し：基礎捨石の表面均し。
- (3) 被覆均し：被覆石（基礎マウンドの基礎捨石の表面を保護するための石）の表面の均し。

#### 3-1 水中と陸上との施工区分



平均干潮面 (M, L, W, L) が設定されていないところでは、平均水面 (M, S, L) と塑望平均干潮面 (L, W, L) との 1/2 とする。

#### 3-2 作業船

使用する作業船は自航潜水士船とし、次表を標準とする。

表 3.1 自航潜水士船の規格

名称	規格
自航潜水士船	ディーゼル機関直結式 4.9t 3~5t 吊

(注) 上表により難しい場合は、別途考慮する。

#### 3-3 編成人員

自航潜水士船の編成人員は、次表を標準とする。

表 3.2 編成人員

(人)

高級船員	潜水士	潜水連絡員
1	1	1

(注) 高級船員は、潜水送気員を兼務する。

#### 3-4 施工歩掛

##### (1) 日当り施工量 (Q1)

日当り施工量は、次表を標準とする。

表 3.3 日当り施工量 (Q1)

(m<sup>2</sup>/日)

区分	本均し	荒均し		被覆均し	
		±30cm	±50cm	±30cm	±50cm
均し精度	±5cm	±30cm	±50cm	±30cm	±50cm
均し面積	14	27	39	20	26

#### 3-5 材料の使用数量

岩石等及び砂利の使用数量は、次式による。

$$\text{使用数量} = \text{設計数量} \times (1 + K)$$

K：ロス率

表 3.4 ロス率 (K)

材料名	岩石等	砂利
ロス率	+0.10	+0.15

(注) 海底地盤や潮流等の現場条件により、これにより難しい場合は別途考慮することが出来る。

4. ブロック製作・据付工

4-1 施工方法

ブロック積込・運搬・据付方法は、次表を標準とする。

表 4.1 据付方法

作業船の組合せ	備考
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">クレーン付台船 又は非航起重機船</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">引船</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自航潜水士船</div>	クレーン付台船又は非航起重機船で積込・運搬・据付けのすべてを 1 編成当り 1 隻で行うものをいう

(注) 自航潜水士船は、水中設置の場合に計上する。

水中設置とは、ブロックの一部が平均干潮面以下にある場合をいう。

$\nabla M, S, L$	(平均水面)
$\nabla M, L, W, L$	(平均干潮面)
$\nabla L, W, L$	(塑望平均干潮面)

なお、平均干潮面 (M, L, W, L) の設定されていないところでは、平均水面 (M, S, L) と塑望平均干潮面 (L, W, L) との 1/2 とする。

4-2 機種を選定

4-2-1 製作・横取り機械の選定

ブロック製作から横取りまでに使用するクレーンの機械・規格は、次表を標準とする。

表 4.2 機種を選定

機械名	規格	単位	数量	摘要
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	台	1	型枠工に使用。
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 100t 吊	〃	1	コンクリート工，横取りに使用。

(注) 1. ブロック実質量，作業半径，地盤等，現場条件により上記により難しい場合は別途機械・規格を選定する。  
2. ラフテレーンクレーン，クローラクレーンは，賃料とする。

4-2-2 作業船の選定

ブロック積込，運搬，据付に使用する作業船の機械・規格は，次表を標準とする。

表 4.3 クレーン付台船・非航起重機船と引船の選定

ブロック実質量	船種	吊り能力	積載質量	引船
4.5t 以下	クレーン付台船	45~50t	500t	鋼製 450PS 型
4.5t を超え 7.5t 以下		80t	700t	鋼製 450PS 型
7.5t を超え 12.5t 以下		100t	1,000t	鋼製 700PS 型
12.5t を超え 22.0t 以下	非航起重機船	100t	1,000t	鋼製 600PS 型
22.0t を超え 31.0t 以下		100t	1,000t	鋼製 600PS 型
31.0t を超え 37.5t 以下		120t	1,000t	鋼製 700PS 型
37.5t を超え 50.0t 以下		150t	1,000t	鋼製 700PS 型

(注) 現場条件により，上記により難しい場合は，別途考慮する。



**4-3 自航潜水士船**

自航潜水士船の規格は、次表を標準とする。

**表 4.4 自航潜水士船**

名称	規格
自航潜水士船	ディーゼル機関直結式 4.9t 3～5t 吊

## 4-4 製作

## 4-4-1 鉄筋工

鉄筋工は、鉄筋（連結用フック含む）の加工・組立費用及び材料費であり、「第 VI 編 第 2 章 1)-1 鉄筋工」による。

## 4-4-2 型枠工

## (1) 型枠の賃料

型枠は、鋼製及び FRP 製型枠使用を標準とし、賃料とする。木製型枠使用の場合は、別途考慮する。

## (2) 型枠の組立・脱型及び型枠清掃、はく離剤塗布歩掛

型枠の組立・脱型及び型枠清掃、はく離剤塗布歩掛及びクレーンの運転時間は、次表とする。

表 4.5 型枠の組立・脱型及び型枠清掃、はく離剤塗布歩掛

(100m<sup>2</sup> 当り)

名称	規格	単位	ブロック実質量	
			11.0t を超え 25.0t 以下	25.0t を超え 50.0t 以下
土木一般世話役		人	0.3	0.2
特殊作業員		〃	0.5	0.5
普通作業員		〃	1.5	1.5
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	0.4	0.4

(注) 鋼製及び FRP 製型枠使用を標準とし、木製型枠使用の場合は、別途考慮する。

4-4-3 コンクリート工

(1) コンクリート投入打設方法

コンクリート投入打設方法は、クレーン打設を標準とする。

(2) コンクリート投入打設歩掛

コンクリート投入打設歩掛及びクレーンの運転時間は、次表とする。

表 4.6 コンクリート投入打設歩掛 (100m<sup>3</sup> 当り)

名称	規格	単位	ブロック実質量	
			11.0t を超え 25.0t 以下	25.0t を超え 50.0t 以下
土木一般世話役		人	0.9	0.7
特殊作業員		〃	1.8	1.5
普通作業員		〃	2.5	2.1
クローラクレーン運転	油圧駆動ウインチ・ラチスジブ型 100t 吊	日	1.2	0.8

(注) 現場条件等で上表により難しい場合は、別途考慮する。

(3) 養生工

養生工の歩掛は、次表とする。なお、給熱養生の場合は別途考慮する。

表 4.7 一般養生工歩掛 (100m<sup>3</sup> 当り)

名称	単位	ブロック実質量	
		11.0t を超え 25.0t 以下	25.0t を超え 50.0t 以下
普通作業員	人	1	0.6

(注) 本歩掛は、むしろ、シート掛け、養生剤である。

(4) 材料の使用量

材料の使用量は、次式による。

$$\text{使用量} = \text{設計量} \times (1 + K)$$

K : ロス率

表 4.8 ロス率

材料	ロス率
コンクリート	+0.01

(注) 現場練りコンクリートを使用する場合も、上表のロス率を用いてもよい。

4-4-4 諸雑費

諸雑費は、型枠剥離剤、インパクトレンチ、電力に関する費用、コンクリートバケット、バイブレータ、養生シート等の費用であり、労務費に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 4.9 諸雑費 (%)

諸雑费率	3
------	---

(注) 一般養生を行わない場合も適用できる。

## 4-5 横取り

## 4-5-1 横取り歩掛

ブロックの横取りの作業に関する日当り施工歩掛は、次表による。

表 4.10 日当り施工歩掛 (個/日)

ブロック実質量	11.0t を超え 25.0t 以下	25.0t を超え 50.0t 以下
横取り Qc1	40	39

## 4-5-2 編成人員

横取りのクレーン 1 台当り編成人員は、次表を標準とする。

表 4.11 クレーン 1 台当り編成人員 (人/台)

作業の種類	職種	土木一般世話役	特殊作業員	普通作業員
	横取り		1	1

(注) 現場条件等で上表により難しい場合は、別途考慮する。

## 4-5-3 諸雑費

諸雑費は、ブロックの横取り作業に必要なワイヤーロープの損料等の費用であり、労務費に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 4.12 諸雑费率 (%)

諸雑费率	0.6
------	-----

## 4-6 積込・据付

## 4-6-1 編成人員

ブロックの積込・据付作業の編成人員は、次表を標準とする。

表 4.13 編成人員 (人)

作業 \ 職種	土木一般世話役	特殊作業員	運転手 (特殊)	普通作業員
積込・据付	1	1	1	1

## 4-6-2 作業船の編成人員

各作業の編成人員は、次表を標準とする。

表 4.14 クレーン付台船及び非航起重機船編成人員 (人)

高級船員	普通船員
1	2

表 4.15 引船編成人員 (人)

高級船員
2

表 4.16 自航潜水士船編成人員 (人)

高級船員	潜水士	潜水連絡員
1	1	1

(注) 高級船員は、潜水送気員を兼務する。

## 4-6-3 施工歩掛

ブロック積込，運搬，据付にかかる日当り施工個数は次表を標準とする。

表 4.17 日当り施工個数 (Q2)

(個/日)

ブロック実質量 (t) 片道運搬距離 (km)	4.5t 以下	4.5t を超え 7.5t 以下	7.5t を超え 12.5t 以下	12.5t を超え 22.0t 以下
5km 以下	39	31	31	28
9km 以下	28	23	23	20
12km 以下	20	16	16	14
14km 以下	15	12	12	11
15km 以下	12	9	9	9
ブロック実質量 (t) 片道運搬距離 (km)	22.0t を超え 31.0t 以下	31.0t を超え 37.5t 以下	37.5t を超え 50.0t 以下	
5km 以下	21	17	16	
9km 以下	15	12	12	
12km 以下	10	9	8	
14km 以下	8	6	6	
15km 以下	6	5	5	

(注) 片道運搬距離は，ブロック積込場所からブロック据付場所までとする。

積込場所から据付場所までの片道運搬距離が 15km を超える場合の，積込みから据付けまでの 1 日当りの施工個数は次式による。

$$Q2 = \frac{\text{日当り作業時間} \times 60 - T1 - T2}{T3} \quad (\text{個/日})$$

(注) 1. T1, T2, T3 は次のとおりである。

T1 : 作業船の往復運搬時間 (min)

T2 : 作業船の積込場所及び据付場所への接岸，アンカー取付・取外し時間 (min)

T3 : ブロック 1 個当り積込・据付時間 (min)

2. 日当り作業時間は 8 時間を標準とする。

## 4-6-3-1 運転時間

作業船の運転日当り運転時間は，次表とする。

表 4.18 作業船の運転日当り運転時間 (P2)

(h/日)

作業船名	運転時間
クレーン付台船又は非航起重機船	$\frac{T3 \times N}{60} \times 1 \text{ 日のサイクル数}$
引船	$\frac{T1 + T2}{60} \times 1 \text{ 日のサイクル数}$

(注) 1. T1, T2, T3, N は次のとおりである。

T1 : 作業船の往復運搬時間 (min)

T2 : 作業船の積込場所及び据付場所への接岸，アンカー取付・取外し時間 (min)

T3 : ブロック 1 個当り積込・据付時間 (min)

N : 1 サイクル当りブロック運搬個数 (個)

2. 1 日のサイクル数の算定は，以下による。

1 日のサイクル数 = 日当り作業時間 / Tc

1 日のサイクル数は整数とし，端数を切り捨てる。

Tc : ブロック運搬 1 サイクル当り施工時間 (h)

3. クレーン付台船又は非航起重機船，引船の乗組員の日当り作業時間は，Tc × 1 日のサイクル数 (整数) により求めた時間とする。

4. 日当り作業時間は 8 時間が標準であり，1 日のサイクル数は 1 回を標準とする。

## 4-6-3-2 1 サイクル当り施工時間

作業船の組合せによる 1 サイクル当り施工時間は、次式による。

$$T_c = \frac{T_1 + T_2 + T_3 \times N}{60}$$

$T_c$  : ブロック運搬 1 サイクル当り施工時間 (h)

$T_1$  : 作業船の往復運搬時間 (min)

$T_2$  : 作業船の積込場所及び据付場所への接岸, アンカー取付・取外し時間 (min)

$T_3$  : ブロック 1 個当り積込・据付時間 (min)

$N$  : 1 サイクル当りブロック運搬個数 (個)

(1) 作業船の往復運搬時間 ( $T_1$ )

作業船の往復運搬時間は次式とする。

$$T_1 = \frac{2L \times 60}{5.5}$$

$L$  : 積込場所から据付場所までの片道運搬距離 (km)

作業船の平均速度は 5.5km/h とする。

(2) 作業船の積込場所及び据付場所への接岸, アンカー取付け・取外し時間 ( $T_2$ )

表 4.19 作業船の積込場所及び据付場所への接岸, アンカー取付け・取外し時間 (min/1 サイクル)

作業船の積込場所及び据付場所への接岸 アンカー取付け・取外し時間	54
-------------------------------------	----

(3) ブロック 1 個当り積込・据付時間 ( $T_3$ )

表 4.20 ブロック 1 個当り積込・据付時間 (min/個)

ブロック実質量 (t)	積込・据付時間
4.5t 以下	8.0
4.5t を超え 7.5t 以下	10.0
7.5t を超え 12.5t 以下	10.0
12.5t を超え 22.0t 以下	11.0
22.0t を超え 31.0t 以下	15.0
31.0t を超え 37.5t 以下	18.0
37.5t を超え 50.0t 以下	19.0

## 5. 間接費

### 5-1 繋船費（準備費）

繋船費は、共通仮設費の準備費に下記により積み上げ計上する。

作業船の休転中の労務費であり、以下による。

- (1) 海象条件不良による休転日……………繋船費対象とする。
- (2) 休日等による休転日……………繋船費対象外とする。
- (3) 運転準備、後片付け期間……………繋船費対象とする。
- (4) 休転率

$$(A-B-C) / C$$

A：供用日数（運転準備、後片付け期間を含む）

B：休日等による休転日数

C：海上作業可能日数（休日等に係る日を除く）

- (5) 繋船日数  
作業日数（全作業量/1日当り作業量）×休転率
- (6) 繋船費対象労務費  
各船舶の船員を対象とする。

### 5-2 退避（準備費）

退避は、共通仮設費の準備費に下記により積み上げ計上する。

現場作業途中で降雨、波浪等の気象、海象条件により退避する場合の経費で、引船の損料及び燃料費を計上する。

この場合、労務費は、繋船費に含まれる。

運行速度は、平均速度 5.5km/h とする。

計上日数は、各海岸の実績による（参考値は 1 箇月当り 2～3 日程度が多い）。

### 5-3 交通船（運搬費）

交通船は、共通仮設費の運搬費に下記により積み上げ計上する。

現地の測量、作業中の連絡用として交通船を見込むことが出来る。

計上日数＝海上作業日数＋準備、後片付け日数

### 5-4 回航又はえい航（運搬費）

回航又はえい航は、共通仮設費の運搬費に下記により積み上げ計上する。

本基準でいう回航・えい航とは

(1) 回航：航行距離が片道 25 海里（46km）以上（一平水区域内の回航は除く）航行させる場合。

(2) えい航：航行距離が片道 25 海里（46km）未満又は一平水区域内において航行させる場合。

ただし、上記によることが不適当な場合は、条件等を考慮し別途積算することが出来る。

※回航又はえい航（運搬費）の内容

回航又はえい航（運搬費）は工事の施工に必要な船舶等を、入手可能であると推定される場所より原則として工事現場までの往復に要する費用とする。

ただし、当該工事に使用後、次の場合は往路のみ計上する。

- (1) 当該工事現場付近で使用の見込みがある場合。
- (2) 当該工事現場を次期工事のため、基地として利用する場合。



## 5-4-1 回航

回航費は、次式による。

回航費＝艀装費＋運転費＋検査料

## (1) 艀装費

回航される船舶、機械器具等を目的地まで安全に航行するために必要な船体の補強、固縛、防水工事等あるいは回航のための解体・組立に要する費用で、下記により積算する。

艀装費＝被回航船舶等の購入価格×艀装費率

ただし、これによることが不適当な場合は、条件等を考慮して別途算出することが出来る。

表 5.1 艀装費率

被回航船舶等の種類	被えい回航の場合	自力回航の場合
主作業船	0.0025 (0.0020)	0.00030
付属作業船	0.0015	0.00015
船舶付属品	0.0010	—

(注) ( ) の艀装費率は、静穏な海域のみを回航する被回航船舶の艀装費率。

## (2) 運転費

運転費は、次式による。

運転費＝材料費＋機械損料＋労務費＋上乘費

## 1) 回航用引船

回航用引船は、原則として作業時の引船を使用する。

ただし、海象条件により、これによることが不適当な場合は別途考慮することが出来る。引船のえい航速度は、5.7km/h、日当り運転時間は「建設機械等損料算定表」の標準値とする。

## 2) 機械損料

引船及び被えい船の機械損料は、「建設機械等損料算定表」の標準値とする。

なお、被えい船については、供用日当り損料のみ計上する。

## 3) 上乘費

被えい航船舶のうち主作業船については、回航中の保安要員として普通船員 2 名を乗船させることを標準とする。

ただし、保安要員は、船の大きさ、回航距離、経路等により増減することが出来る。

## (3) 検査料

日本海事検定協会の検査料金表による。

## 5-4-2 えい航

えい航費は、次式による。

えい航費＝運転費

## (1) 運転費

運転費は、次式による。

運転費＝材料費＋機械損料＋労務費＋上乘費

(1) えい航用引船・・・回航用引船に同じ

(2) 機械損料・・・・・・回航に同じ

(3) 上乘費・・・・・・回航に同じ

## 6. 単価表

(1) 捨石材料 1m<sup>3</sup> 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
捨石		m <sup>3</sup>		表 3.4
諸雑費		式	1	
計				

(2) 捨石均し 1m<sup>2</sup> 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
自航潜水土船運転		日	$\frac{1}{Q1}$	表 3.3 (7) 単価表
諸雑費		式	1	
計【S1100】				

(注) Q1 : 日当り施工量

## (3) ブロック (実質量○○t) 製作 10 個当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	$(表 4.5) \times A/100 \times 10$ + $(表 4.6) \times V/100 \times 10$	
特殊作業員		〃	$(表 4.5) \times A/100 \times 10$ + $(表 4.6) \times V/100 \times 10$	
普通作業員		〃	$(表 4.5) \times A/100 \times 10$ + $(表 4.6) \times V/100 \times 10$ + $(表 4.7) \times V/100 \times 10$	
生コンクリート		m <sup>3</sup>		表 4.8
(鉄筋)		t		
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 油圧伸縮ジブ型○○t 吊	日	$(表 4.5) \times A/100 \times 10$	機械賃料
クローラクレーン賃料	油圧駆動ウインチ・ ラチスジブ型○○t 吊	〃	$(表 4.6) \times V/100 \times 10$	機械賃料
型枠賃料		m <sup>2</sup>		
諸雑費		式	1	表 4.9
計【S2010005】				

(注) 1. 養生工を給熱養生とする場合は、養生工の普通作業員を除き別途計上する。

2. V : ブロック 1 個当りコンクリート設計量 (m<sup>3</sup>)3. A : ブロック 1 個当り型枠面積 (m<sup>2</sup>)

## (4) ブロック (実質量〇〇t) 横取り 10 個当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	$\frac{10}{Qc1} \times 1 \times D$	Qc1 : 日当り作業個数 (個/日) 表 4. 10  編成人員 表 4. 11
特殊作業員		〃	$\frac{10}{Qc1} \times 1 \times D$	
普通作業員		〃	$\frac{10}{Qc1} \times 1 \times D$	
クローラクレーン賃料	油圧駆動ウインチ・ラチスジブ型〇〇t 吊	日	$\frac{10}{Qc1} \times D$	
諸雑費		式	1	表 4. 12
計 【S2010007】				

(注) D : 横取り作業回数

## (5) ブロック積込・運搬・据付 10 個当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人	$10/Q2 \times 1$	表 4. 13
特殊作業員		〃	$10/Q2 \times 1$	〃
普通作業員		〃	$10/Q2 \times 1$	〃
運転手 (特殊)		〃	$10/Q2 \times 1$	〃
クレーン付台船又は非航起重機船	旋回式	日	$10/Q2$	表 4. 3 (6) 単価表又は機-26
引船運転		〃	$10/Q2$	表 4. 3 機-11
自航潜水土船運転		〃	$10/Q2$	(7) 単価表 水中設置の場合に計上
諸雑費		式	1	
計 【S1102】				

(注) Q2 : 日当り施工個数 (表 4. 17)

## (6) クレーン付台船運転 1 日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
高級船員		人	1	表 4. 14
普通船員		〃	2	〃
燃料費	軽油	L		片道運搬距離 15km 以下 40~50t 吊り→108 80t 吊り→172 100t 吊り→206 片道運搬距離 15km を超える 40~50t 吊り→22×P1 80t 吊り→35×P1 100t 吊り→42×P1
クローラクレーン損料		供用日	1. 88	
台船損料		〃	1. 88	
諸雑費		式	1	
計				

(注) P1 : クレーン付台船の運転 1 日当り運転時間 (表 4. 18)

## (7) 自航潜水士船運転 1 日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
高級船員		人	1	表 3.2 又は表 4.16
潜水士		〃	1	〃
潜水連絡員		〃	1	〃
燃料費	軽油	L	捨石均し工→145 ブロック据付工→110	
自航潜水士船	ディーゼル機関直結式 4.9t 3～5t 吊	供用日	1.88	
諸雑費		式	1	
計				

## (8) 繫船費（クレーン付台船又は非航起重機船）1 式内訳書

名称	規格	単位	数量	摘要
高級船員		人		5-1(5)×表 4.14
普通船員		〃		〃
計				

## (9) 繫船費（引船）1 式内訳書

名称	規格	単位	数量	摘要
高級船員		人		5-1(5)×表 4.15
計				

## (10) 繫船費（自航潜水士船）1 式内訳書

名称	規格	単位	数量	摘要
高級船員		人		5-1(5)×表 3.2 又は表 4.16
潜水士		〃		〃
潜水連絡員		〃		〃
計				

## (11) 退避費（引船）1 日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
燃料費	重油	L		5-2
引船	鋼製, ○○○PS 型	供用日	1.88	
諸雑費		式	1	
計				

(12) 回航, えい航運転費 1 日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
高級船員		人	2	5-4 表 4. 15
普通船員		〃		5-4
燃料費	重油	L		〃
引船	鋼製, ○○○PS 型	供用日	1. 65	〃
クレーン付台船	旋回式	〃	1. 55	〃 表 4. 3
非航起重機船		〃	1. 65	〃 表 4. 3
諸雑費		式	1	
計				

(13) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
非航起重機船	表 4. 3	機-26	労務数量 →表 4. 14 機械損料数量 →1. 88 燃料消費量 片道運搬距離 15km 以下 100t 吊り →372 120t 吊り →417 150t 吊り →480 片道運搬距離 15km を超える 100t 吊り →76×P2 120t 吊り →85×P2 150t 吊り →98×P2 主燃料→重油
引船	表 4. 3	機-11	単価表単位 →日 船員 →表 4. 15 船員数量 →表 4. 15 機械損料単位 →供用日 機械損料数量 →1. 88 燃料消費量 片道運搬距離 15km 以下 鋼製, 450PS 型 →407 鋼製, 600PS 型 →539 鋼製, 700PS 型 →637 片道運搬距離 15km を超える 鋼製, 450PS 型 →83×P2 鋼製, 600PS 型 →110×P2 鋼製, 700PS 型 →130×P2 主燃料 →重油
交通船	鋼製 4. 9t	機-11	単価表単位 →日 船員 →高級船員 船員数量 →1 人 機械損料単位 →供用日 機械損料数量 →1. 95 燃料消費量 →42 主燃料 →重油
クローラクレーン	○○t 吊	機-27	運転時間 6. 4h/日

(注) P2 : 各作業船の運転 1 日当り運転時間 (表 4. 18)